京都ホテルオークラ周辺幕末史跡マップ

N

坂本龍馬家紋
"連枝柏梗"

京都ホテルオークラ

1 桂小五郎像

京都ホテルオークラの河原町通側に、その雄姿を見せる桂小五郎（後の木戸孝允）は維新三傑の一人。また、芸妓・幾松との恋物語でも広く知られている。

2 長州屋敷址

長州藩邸は幕末には尊王攘夷運動の拠点であったが、元治元年（1864）禁門の変で焼失をした。時を経て、現在、この敷地内に京都ホテルオークラは建っている。

3 幾松・桂小五郎寓居址

幾松は、桂小五郎が命の危険に晒されていたもっとも苛烈な時代、潜伏中の彼を必死にささえつづけ、のちに妻となる女性である。現在は料理旅館として営業している。

4 佐久間象山・大村益次郎遭難之碑

佐久間象山は元治元年(1864)に尊王攘夷派の凶刃に倒れ、また陸軍の祖 大村益次郎は明治2年(1869)に同じく刺客に襲われている。

※三条小橋北西角には案内の碑が建つ

5 佐久間象山寓居之址

公武合体や開国論を説いた幕末におけるアジアの第一人者。吉田松陰をはじめ、龍馬や勝海舟もその門下に一時名を連ねたことがあった。

14 金蔵寺跡

元治元年（1864）8月、龍馬とお龍は青蓮院塔頭金蔵寺の本堂にて「内祝言」を挙げている。その時の様子はお龍の回想録に詳しい。

6 武市瑞山寓居之跡

土佐藩郷士。同郷の龍馬（遠縁でもある）や中岡慎太郎ら同士を集めて土佐勤皇党を結成した。文武両道に秀で、後の戯曲「月形半平太」のモデルにもなった。

7 吉村寅太郎寓居之址

土佐勤皇党に参加。後に天誅組を組織して倉良で挙兵するも、文久3年(1863)9月吉野にて戦死。石碑の後には、愛嬌のある信楽焼の狸が置かれている。

8 池田屋騒動之址

元治元年（1864）、近藤 勇・沖田総司ら新選組が、池田屋にて密談中の志士を急襲した。龍馬と親交の深かった望月亀弥太も命を落とした。

9 酢屋

「酢屋」は享保6年(1721)よりつづく材木商。龍馬はこの二階に海援隊京都本部を置き定宿とした。現在も当時の面影を残し、一階は木工芸店「酢屋」として営業、二階は「ギャラリー龍馬」として資料が展示されている。

10 土佐藩邸跡

土佐藩邸は高瀬川の西側から河原町通に至る間にあった。最初の脱藩をゆるされた龍馬は、ここで「御叱り」として7日間謹慎をしていた。

11 岬神社（土佐稲荷）

貞和4年(1348)、鴨川西寄の中州の岬に祀られたのが起こり。江戸時代初期に土佐藩邸内に遷座された。境内に小さな龍馬像が建てられている。

12 坂本龍馬・中岡慎太郎 遭難の地（近江屋跡）

慶応3年（1867）11月15日の夜半、土佐藩御用達の醤油商近江屋において、坂本龍馬と中岡慎太郎は凶刃に倒れた。犯人については諸説あるが詳細は不明。

13 中岡慎太郎寓居之跡

土佐藩出身の志士。龍馬の盟友。薩長同盟・薩土同盟の締結に尽力した。ここは脱藩後の中岡が下宿していた土佐藩御用達書林菊屋跡。

京の街角に
刻まれた
龍馬の時代をたどる
小さな時間旅行

京都ホテルオークラ近傍
寺町通
栗田口橋

からすま
京都ホテル

至二条城前・太秦天神川
至国際会館
地下鉄 烏丸御池駅
地下鉄 東西線
地下鉄 京都市役所前駅
御池通
市役所
二条通
至出町柳
至大津・六地蔵
地下鉄 三条京阪駅
地下鉄 東山駅
三条通
京阪三条駅
姉小路通
文化博物館
烏丸通
東洞院通
高倉通
堺町通
柳馬場通
富小路通
六角通
地下鉄 烏丸線
蛸薬師通
錦小路通
地下鉄 四条駅
阪急 烏丸駅
阪急電車
綾小路通
至梅田・桂
至竹田・京都
河原町通
高瀬川
先斗町
鴨川
川端通
京阪電車
木屋町通
東大路通
白川
四条通
京阪 河原町駅
京阪 祇園四条駅
南座
祇園縄手通
至淀屋橋・伏見
麩屋町通
御幸町通
寺町通
新京極
裏寺通

Kyoto Hotel Okura